

まえがき

私の人間性心理学（humanistic psychology）の研究は、二人の卓越した心理臨床家との出会いから始まりました。そのお二人とは、東洋大学大学院文学研究科 教育学専攻 修士課程でお世話になった伊藤隆二先生（横浜市立大学名誉教授）と、名古屋大学大学院 心理発達科学専攻 博士後期課程で御指導を受けた田畑治先生(名古屋大学名誉教授)です。

伊藤先生からは、人間性心理学の基本、特に「人間の最も人間らしい特性ないしは本質（human-nature）を探究する心理学が人間性心理学である」ということ、さらに「生きがい」ということが人間性心理学の研究テーマになり得ることをお教えいただきました。また、田畑先生からは、「カウンセリング実践と生きがいの関係を事例研究によって探る」という私の研究テーマを深めていく際に、博士論文指導を通じて、さまざまな自らの体験を私に語っていただき、「生きがい」研究とは、まず自分の生きがい・生き方について内省するところから始まることを教えていただきました。

この研究は、次のようにまとめられ発表されています。

- ・鶴田一郎（2004）『『生きがい』に関するカウンセリング心理学研究——間主観カウンセリングによる心理臨床実践の事例研究を通じて』名古屋大学大学院教育発達科学研究科。（*名古屋大学へ提出した博士論文）
- ・鶴田一郎（2004）『間主観カウンセリング——「生きがい」の心理学』西日本法規出版。（*上の博士論文を授業用テキストに書き換えたもの）
- ・鶴田一郎（2007）『生きがいカウンセリング』駿河台出版社。（*上の授業用テキストをさらに一般向きに書き直したもの）

本書の副題である「続・生きがいの心理学」は上の授業用テキストに続く

ものという意味です。また首題を「人間性心理学研究序説」としたのは人間性心理学研究の原点に戻りたかったからです。本来、人間性心理学研究は、カウンセリング実践に限定されるものではないのですが、私の先の著書を見てもわかるように「カウンセリングこそが人間性心理学」という誤解もたれることが多いように感じます。そこで、本来、ある分野に限定されないさまざまな分野を統合した学際的研究が人間性心理学研究のメインであることを強調する意味も含めて、本書は次のような構成にしました。

まず全体を大きく5つのパートに分けました。その5つのパートとは「私の人間性心理学の目指すところ」「人間性心理学の方法論の検討」「人間性心理学の展開Ⅰ『最も小さき者』とは誰か?」「人間性心理学の展開Ⅱ『コンパッション』の意味」「人間性心理学の展開Ⅲ『生きがいの心理学』を目指して」です。

そして、それぞれのパートに次のように1本ないし2本の論文が含まれています。

私の人間性心理学の目指すところ

第1章「臨床世界学」の構築に向けて

人間性心理学の方法論の検討

第2章「サルになった男」間直之助

——主体変様的方法の実践者

人間性心理学の展開Ⅰ.『最も小さき者』とは誰か?

第3章 最も小さき者の下に立つ教育

——内村鑑三の米国ペンシルバニア州立知的発達障害児訓練学校での体験を主軸に

第4章 最も小さき者と共に歩む教育

——聖フランシスコの「平和の祈り」を出発点として

人間性心理学の展開Ⅱ. 『コンパッション』の意味

第5章 教育におけるコンパッションの意味

——灰谷健次郎『だれも知らない』批判をめぐって

第6章 カウンセラーが如何に生きるか

——卓越した心理臨床家・霜山徳爾の生き方を手がかりにして

人間性心理学の展開Ⅲ. 『生きがいの心理学』を目指して

第7章 神谷美恵子の「生きがい研究」、その契機と過程

第8章 V. E. フランクルにおける「生きがい論」の射程

——自己実現から自己超越へ

本書は第1章から読み進めなければならないというわけではありません。例えば、アトランダムに「人間性心理学の展開Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の中の興味のありそうな章から読み進め、第1章、第2章と最後に読んでいくのも一案です。いずれにせよ決まりはありません。自由に読み進めていただければと思います。

2016年3月

鶴田 一郎

人間性心理学研究序説
— 続・生きがいの心理学 —

目 次

まえがき	1
------------	---

私の人間性心理学の目指すところ

第1章 「臨床世界学」の構築に向けて	10
I. はじめに	10
II. 實川幹朗氏の研究方法論の基本的スタンス —「臨床世界学」の構築を目指す	10
III. 實川幹朗氏の論文 —臨床世界学の視点からの癲癇に関する現象学的考察	12
IV. 「臨床世界学」の方法論と筆者の研究方法論との対照	15
V. おわりに—まとめにかえて	16

人間性心理学の方法論の検討

第2章 「サルになった男」間直之助 —主体変様的方法の実践者	20
I. はじめに—問題の所在	20
II. 間直之介の生涯の概観	22
III. 主体変様的方法—間直之助の実践から	25
IV. 間直之助の人生と学問探究の特長	30
V. おわりに—まとめにかえて	33

人間性心理学の展開 I. 「最も小さき者」とは誰か？

第3章 最も小さき者の下に立つ教育 —内村鑑三の米国ペンシルバニア州立知的発達障害児訓練学校 での体験を主軸に	38
I. はじめに—問題の所在	38
II. 「最も小さき者」へ向かう回心	39
III. 内村鑑三の米国ペンシルバニア州立知的発達障害児訓練学校 での体験と、その後	41
IV. おわりに—まとめにかえて	50

第4章 最も小さき者と共に歩む教育

- 聖フランシスコの「平和の祈り」を出発点として …………… 53
- I. はじめに—問題の所在 53
- II. 「最も小さき者」とは—聖書より 55
- III. 聖フランシスコの生涯—平和の祈り 56
- IV. 「最も小さき者」として覚醒すること—アウェアネス 60
- V. 「最も小さき者」へ向かう回心—変革体験 61
- VI. 「最も小さき者」との相互理解—了解 63
- VII. 「最も小さき者」と共に歩む教育—同行 65
- VIII. おわりに—まとめにかえて 67

人間性心理学の展開Ⅱ. 「コンパッション」の意味

第5章 教育におけるコンパッションの意味

- 灰谷健次郎『だれも知らない』批判をめぐって …………… 74
- I. はじめに—問題の所在 74
- II. 『だれも知らない』への批判 77
- III. 教育におけるコンパッションの意味—批判への反証を通じて 79
- IV. おわりに—まとめにかえて 86

第6章 カウンセラーが如何に生きるか

- 卓越した心理臨床家・霜山徳爾の生き方を手がかりにして …………… 89
- I. はじめに—問題の所在 89
- II. 霜山徳爾の生き方—共生と共苦 90
- III. カウンセラーの生き方について
—コンパッションと畏敬の念、そして同行 99
- IV. おわりに—まとめにかえて 105

人間性心理学の展開Ⅲ. 「生きがいの心理学」を目指して

第7章 神谷美恵子の「生きがい研究」、その契機と過程 …………… 108

- I. はじめに—問題の所在 108
- II. 神谷の結核療養体験 109

- Ⅲ. 神谷の変革体験 112
- Ⅳ. 神谷の「癩者」との出会い 116
- Ⅴ. 神谷の「癩者」とのかかわり 122
- Ⅵ. おわりに——まとめにかえて 125

第8章 V. E. フランクルにおける「生きがい論」の射程	
——自己実現から自己超越へ	131
Ⅰ. はじめに——問題の所在	131
Ⅱ. ニヒリズム批判とヒューマニズムの危機	132
Ⅲ. 自己実現から自己超越へ	137
Ⅳ. 現代における生きがい論の課題	142
Ⅴ. おわりに——まとめにかえて	145
初出一覧	147